

## 「新しい人事・賃金制度の内容は到達点ではない」 だったら妥結しなければいいのに！ 本音はJR東海労も妥結してほしい？

JR東海ユニオン第28回定期大会が7月3日に開催され、新しい人事・賃金制度の見直しに対する発言が多く、代議員からありました。大会は、6月5日の追加提案の内容で執行部は成果を打ち出し、代議員は絶賛するという計算だったのでしょうか？ところが、否定的な発言が相次いだもようです。それもそのはず、とても良い制度とは言い難い内容であり、職場の組合員はお見通しだからです。

大会で委員長は「この内容は私たちが目指す到達点ではありません」と挨拶しました。総括答弁でも同様の見解を示しました。そう思っているなら、早々に妥結する必要があったのでしょうか。来賓の巢山副社長も「労使で引き続き真摯な議論をさせていただいて」と挨拶しています。制度の本格実施は来年4月1日なのです。JR東海ユニオン組合員の皆さん、役員に「到達点ではないのに何で妥結したのか？」「もっと改善してくれるんですよね」と質問しましょう。

後味が悪く終了したJR東海ユニオン大会ですが、組合員の不満が解消されたわけではありません。その不満の矛先を変えようとしたのが『組織情報』No.847（8月23日付）です。JR東海労組合員がリーフレットをおねだりなどと、おちょくっています。裏返せば、「妥結したユニオンは正解だった」とのアピールです。

JR東海労は、新しい人事・賃金制度について妥結を急ぐ必要はないと考えています。組織情報の「早く妥結すればいいのにとっている東海労組合員もいるそうです」との記述は、「JR東海労が妥結をすれば、組合員からの批判がなくなるのでは」と思っているJR東海ユニオン役員や会社の本音でしょう。

労働組合は、会社目線ではなく、組合員目線です。

ユニオン大会で制度の批判が爆発！  
不満の矛先をJR東海労に向けようと必死のJR東海ユニオン幹部